

Test Data Warehouse

オンデマンドのテストデータでテストサイクルの短縮とコラボレーション向上を実現

利点

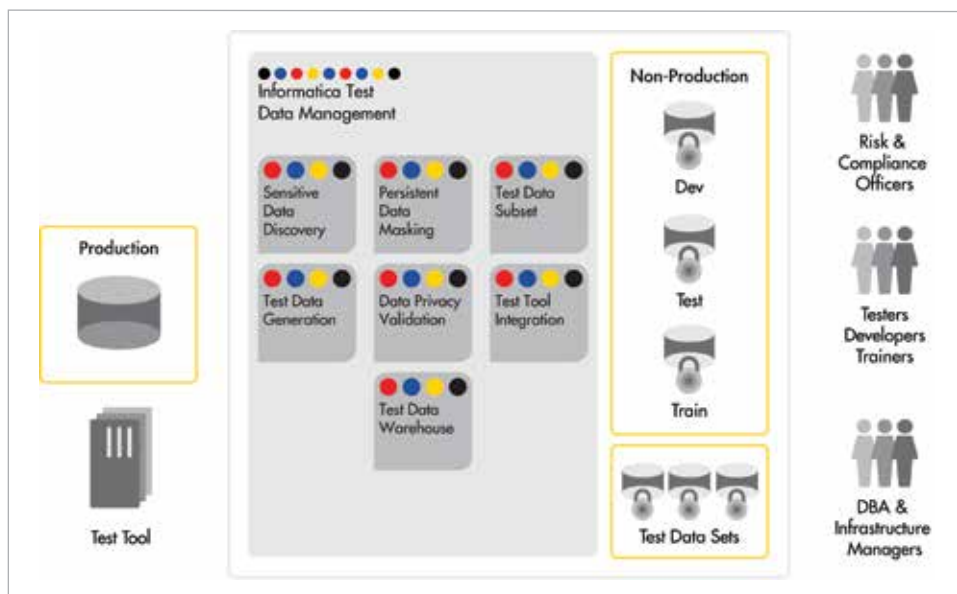
- セルフサービス方式のテストデータ プロビジョニングによってテストサイクルを短縮
- テストデータとテストケースを連携させることで、質の高い一貫したテストを実施
- テストデータの検索、マーク付け、共有により、生産性とコラボレーションを向上
- データベースおよびアプリケーション環境のプロビジョニングでITリソースを最適化し、依存度を低減

ソフトウェアのテストには、新しいイニシアチブの開発・展開や既存システムのアップグレード/パッチ適用に要する時間の50%を超える時間を要する場合があります。テストプロセスでは、テストケースの要件を満たすテストデータの特選、セキュリティ確保、プロビジョニングが大きな課題になることがあります。

運用データベース内に代表的なデータがあれば、テストチームは非運用状態のマスキングされたデータ コピーをリクエストできます。テスターが使用できるようにデータベース全体をプロビジョニングするには数週間から数か月を要する場合もあり、アジャイル開発プロセスの遅延につながる恐れがあります。データが存在しない場合、テスターは手作業でデータセットを作成することもできますが、これは難しいだけでなく、テストケースの範囲が制限されてしまうこともあります。

Informatica Test Data Management (TDM) スイートの主要コンポーネントの1つである Test Data Warehouse (TDW) を中央リポジトリとして導入することで、テストデータセットの保存と共有、プロビジョニングをテストコミュニティで直接行うことができます。またコラボレーション機能により、テストデータセット全体でマーク付け、タグ付け、検索の機能を利用でき、オンデマンドのプロビジョニングとリセットが可能です。テストチームは、TDWを使用して、固有の「ゴールデン テストレコード (高品質で唯一無比のテストレコード)」セットを特定し、共有のテスト環境内でデータをプロビジョニングできます。テスト結果を台無しにしかねないテストの衝突やデータの破壊といったリスクは一切ありません。

テストデータには、運用データのマスキング コピーを使うか、データサブセット、データマスキング、データ生成の統合機能を使用して合成することもできます。オンデマンドのテストデータによって、テスト環境全体を更新する必要なしに開発とテストを迅速に繰り返し行えるようにすることで、アジャイル手法のニーズを満たせます。



セキュアなテストソリューションスイートの一部であるTest Data Warehouseでは、テストデータ管理者とQAエンジニアは連携してテストの生産性を高めることができます。

主な機能

テストデータのリセット

テストデータセットのプロビジョニングと再プロビジョニングにより、テストの一貫性と正確なテスト結果を確保できます。指定のテーブルと行のセットが、テスト基準を満たす一意のデータセットとして認識されます。認定テスターおよびテストチームは、独自のテストデータセットを更新するセルフサービス機能によって、テストを繰り返すか次の段階のテストに移ることができます。これによってテスターの遊休時間が減り、テストプロセスの継続性が促進されます。このとき、同じテスト環境を共有する他のテストチームにマイナスの影響を及ぼすことはありません。

テストデータのバージョン管理と共有

TDWには、単一のテストデータセットの複数のバージョンを保存することができます。テストデータセットのバージョンを作成するには、データソースのデータを更新するか、テスト環境からテスト結果を直接保存します。データセットの各バージョンには、テスト名、テスター、実行したテストケース、テスト結果などの情報を関連付けできます。このメタデータにより、テストデータセットのバージョン

全体およびすべてのデータセットで検索、共有、レポート作成を簡単に行うことができます。

統合されたテストデータ管理機能

TDMプラットフォームおよびコンポーネントには、既存のデータをサブセット化してマスキングする機能や合成データを生成する機能などが豊富に用意されています。これらのデータプロビジョニング機能はTDWに完全に統合されており、共通の共有リポジトリにテストデータセットを保存することが可能です。さらに、インフォマティカのTDMプラットフォームには業界をリードする先進の接続機能が実装されているので、異種アプリケーション環境も単一のTDM環境から管理できます。

単一の中央リポジトリ

テストデータを中央のリポジトリで一元管理することによって、複数の環境で簡単に共有したり再利用したりできるようになります。TDWでは、異種アプリケーションおよびデータベース間のテストデータセットを単一のリポジトリに保存できます。すべてのテストデータを1か所で検索できるので、すべてのテスト環境でのテストデータの共有、コラボレーション、迅速なプロビジョニングが可能になります。

Configure plan settings. Plan settings apply to all data sources included in the plan.

Connections

Treat the subset criteria as a variable. [?](#)

Use Source Connection as Target Connection.

* Source Connection: Relational | OMNIBUS_TGT | Select

* Target Connection: Test Data Warehouse | TDW_MART | Select

Test Data Warehouse Settings

* Name: TestDataFrequentFlier_1011

Description: This is a dataset for frequentFliers with ID 1011

Data Set Version: 1.0

Application: Omnibus

Application Version: 11

Tags: [FrequentFlier X](#) [FlightUpgrade X](#) [FreeFlights X](#) [TC-101 X](#) [TC-102 X](#) [TC-103 X](#) [LOB-A X](#) | Clear

Target

Truncate Tables

Disable Indexes

Disable Constraints

OK Cancel

テスターは、テスト環境からデータのサブセットを取り出し、後で使用するために中央のTest Data Warehouseに置いておくことができます。これらのデータセットに名前とタグを付ければ、後で検索し、テストで使うことが可能になります。

主なメリット

テストサイクルの短縮

アジャイル開発には、「シフトレフト テスト」の機能が必要です。TDWでは、セルフサービス式のプロビジョニングとテストデータのリセットによって、テストで短い開発サイクルとスプリントに対応することができます。テストチームはテストデータを個別にプロビジョニングすることで、テストのプロセスと効率を最大化できます。このようにしてテストデータのプロビジョニングにおけるボトルネックを排除することで、プロジェクトをスケジュールどおりに、予算内で完了することが可能になります。

テストの生産性の向上

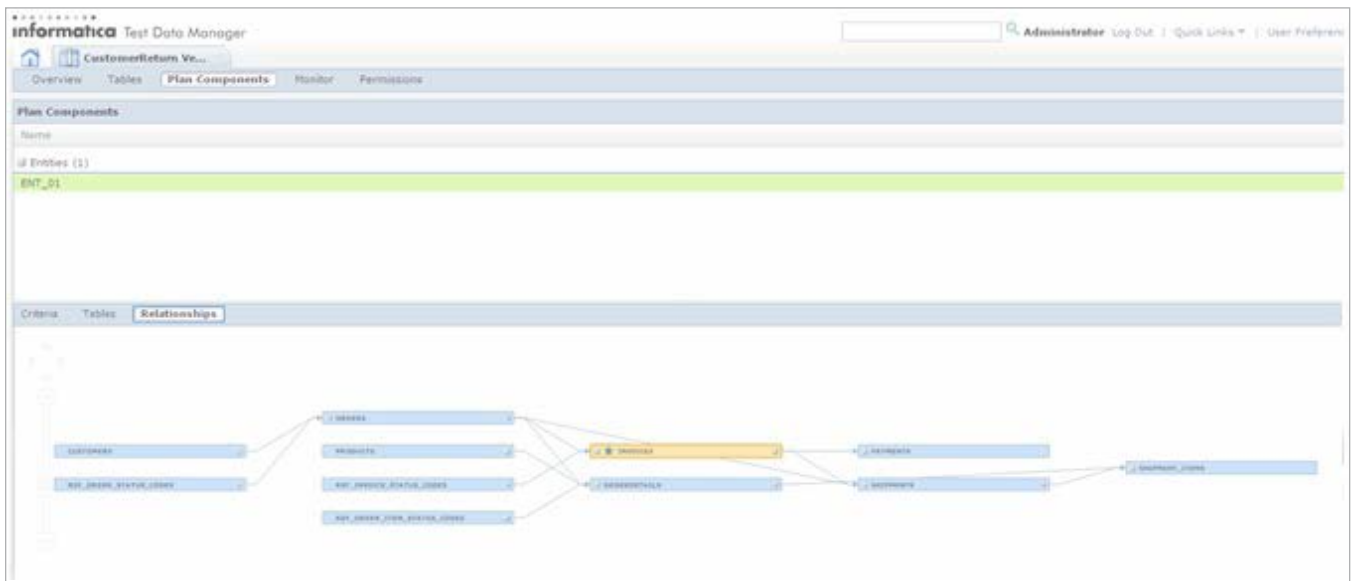
TDWでは、テスターはテストデータセットをプロビジョニング、管理、共有できます。テストチームは適切なテストデータセットを発見してバージョンをマーク付けし、テストケースおよびシナリオと連携させることができます。また検索とコラボレーション機能により、複数のテストやプロジェクトで並行してコアデータを迅速に識別して再利用できます。テストデータを指定のテストケース向けにロックして予約すれば、テストの一貫性を確保できます。

品質と一貫性の確保

テストの最大の目的は、欠陥を見つけてこれらを減らすところにあります。最も幅広い範囲のテストケースを網羅する最適なデータセットがあれば、ソフトウェアのエラーを発見し検出する機能の効果を最大限に引き出すことができます。また、手作業でデータを作成した場合の効率性の低さや、複数のスプレッドシートや他のファイル形式でデータを管理している場合の整合性の欠如といった問題も解消されます。

ITリソースの最適化

一般的なテストデータのプロビジョニングでは、データベース全体（物理DB／仮想DB）を割り当てる必要があります。しかし、これによってテストチーム間でのプロセスの共有と調整が難しくなります。TDWでは、テストチームが共通の共有データベース環境内でテスト プロセスを調整して分離できるので、ITの人員やインフラストラクチャを節約できます。



テスターは、データセットを見て、含まれているテーブルとそれらのテーブル間の関係を確認できます。

インフォマティカについて

インフォマティカは、あらゆるモノを動かすデータの未来を変革するイノベーションに取り組む先進的な独立系ソフトウェアプロバイダーです。インフォマティカのソリューションによって世界中の企業が情報価値を高めることに成功し、ビジネスの最重要ニーズを満たしています。現在、5,800社を超える企業がインフォマティカを利用して、オンプレミスやクラウドのほか、ソーシャルネットワークを含むインターネット上の情報資産から最大限の価値を引き出すことに成功しています。



〒105-6226 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600(代表) FAX：03-3433-1021
www.informatica.com/jp [linkedin.com/company/informatica](https://www.linkedin.com/company/informatica) twitter.com/Informatica

© 2016 Informatica LLC. All rights reserved. Informatica®およびPut potential to work™は、米国およびその他の国におけるインフォマティカの商標または登録商標です。その他全ての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。